



① 居館の入口通路に立て並べられた巨石石垣です。発掘調査では裏込め石が用いられていることや、基礎の築き方に2種類の方法が使われていることがわかりました。現在は復元整備されています。



② 信長入城後の地層よりもさらに下の地層から見つかった石垣です。小型の石材を隙間なく垂直に積んでおり、後斎藤期の石垣であると考えられます。



③ 庭園の背景として積まれた巨石石垣です。発掘調査時には一石のみ残っていました。この庭園の池跡から金箔瓦が見つかりました。
※現在は埋め戻されています。



⑨ 水路の護岸とC地区の区画を兼ねた石垣です。裏込め石の残存状況から約6mの高さを有し、上下2段に分けて築かれていたと推定されます。裏込め石の最奥では構築時の目印の可能性のある石組が確認されています。



④ C地区の西側を区画していた石垣です。⑨の石垣と直交関係になることから同一設計で構築されたものと考えられます。C地区は元々方形に造られたようですが、埋め立てられ、現在の地形に改修されたと考えられます。
※現在は埋め戻されています。

日本遺産・信長居館
発掘調査案内所



⑤ 円弧状に積まれた庭園の背景の石垣です。石垣の上部は自然の尾根で人工的な平坦地が存在しないことから観賞用に築かれた石垣と考えられます。
※現在は埋め戻されています。



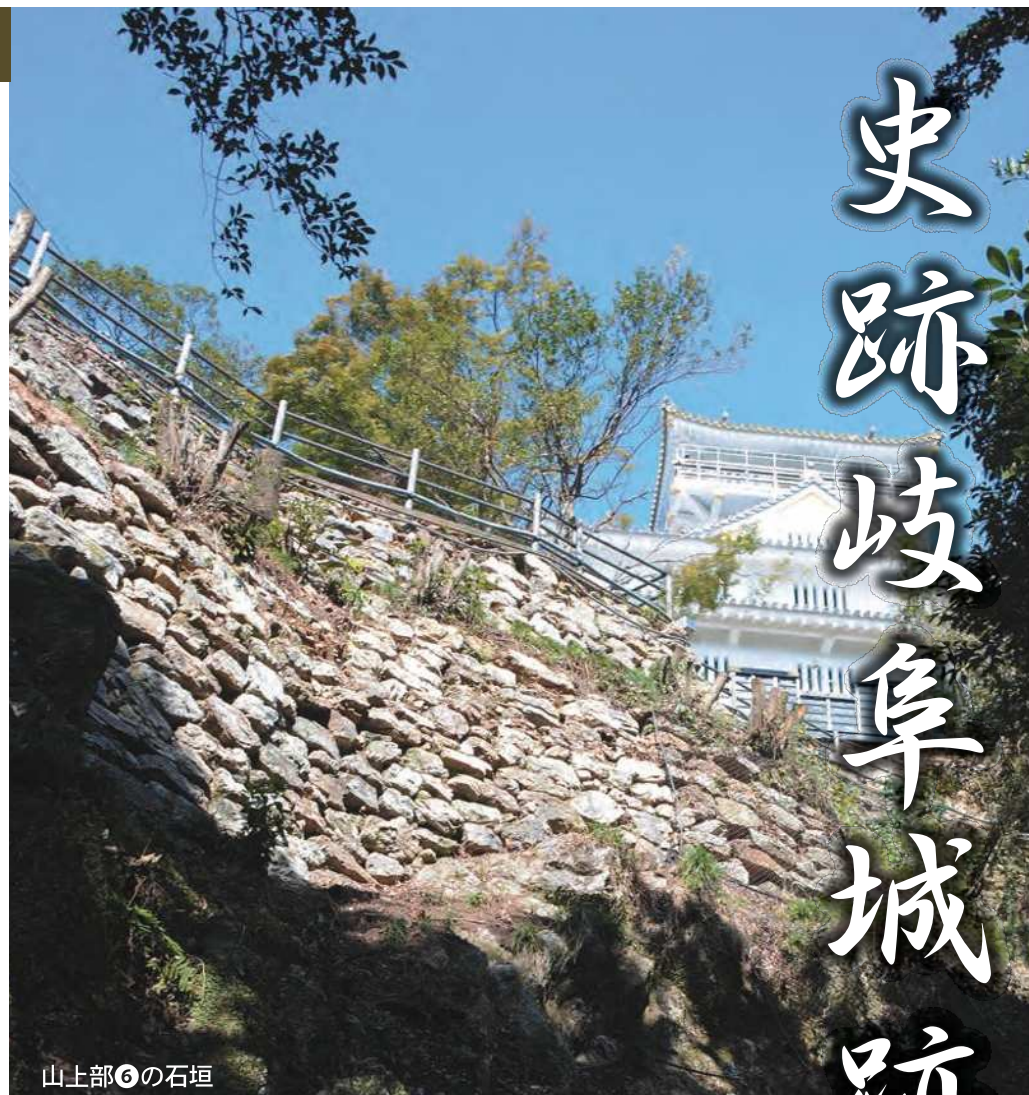
⑥ 庭園の背景に積まれていた巨石石垣です。山麓居館で最も大きい縦2.4m、横3.5mの巨石が使われています。



⑦ 谷川の南を護岸していた巨石石垣です。ほとんどが崩れてしまっていますが一部で良好に残っており、橋の上から見るができます。



⑧ A地区庭園の西側を区画していた石垣です。残っていた高さは約1.3mですが、裏込めの残存する高さから推定すると2.3m以上積まれていたと考えられます。
※現在は埋め戻されています。



山上部⑥の石垣

史跡岐阜城跡石垣マップ

岐阜城は天文8年(1539)頃に斎藤道三によって本格的に城郭として整備されます。
永禄10年(1567)に織田信長が城主となると、道三を受けつぎつつ大改修を行い、さらに発展させた城造りが行われました。
岐阜城ではこれまで発掘調査や分布調査が行われ、各所で当時の石垣が見つかっています。
道三や信長によって築かれた石垣を巡りながら戦国時代の岐阜城の姿を体感してみませんか。

マップの使い方

※チェックボックスがついているものは現地でご覧いただくことができます。チェックボックスのないものは遺跡保護のため埋め戻しを行っています。現在はお覧いただくことが出来ませんのであらかじめご了承下さい。
※立ち入り禁止箇所や登山道を外れた場所は危険ですので絶対に入らないで下さい。

史跡岐阜城跡石垣発見伝

山上部

岐阜城の調査

岐阜城の発掘調査は昭和59年(1984)に山麓部で行われたのが最初です。巨石を立て並べた出入口や石垣などが見つかりました。その後の調査では、複数の庭園が見つかるなど、山麓居館の姿が明らかになってきました。

平成30年(2019)からは山上部の発掘調査に着手し、各所で戦国時代の石垣が見つかっています。



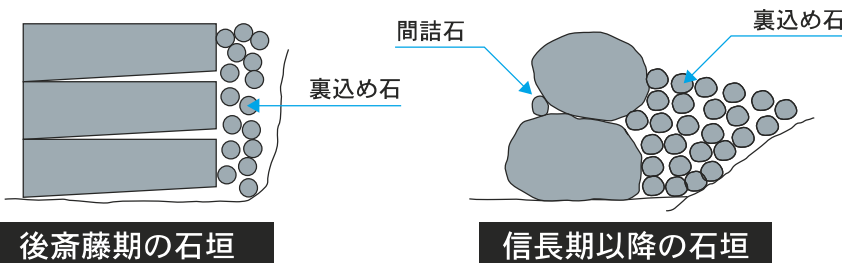
岐阜城の石垣の特徴

これまでの調査で岐阜城の石垣は天文8年(1539)頃の斎藤道三から始まる後斎藤期と、永禄10年(1567)からの信長期以降の大きく2つの時期に分かれることや、大型の石材を使用した巨石石垣があることが分かりました。

巨石石垣は約1mから1.5m程の大型の石材を使用して築かれています。

後斎藤期の石垣は、主に角張った横長の石材を隙間なく垂直に積まれているのが特徴です。

一方、信長期以降の石垣は角が丸く比較的大きな石材を使用しています。石材同士の合わせ目が表面よりやや奥にあるため表面に隙間が生じ、その隙間を埋めるため間詰石が入念に詰められています。また、石垣はゆるやかな傾斜をつけて積まれています。



⑥ 上台所と天守の間に2段に築かれた石垣です。信長期以降に谷であった場所に平坦な通路を造るため築かれたと考えられます。



⑧ 天守台の東側に築かれた石垣です。信長よりもさらに後の池田輝政の時期に築かれた可能性があります。



⑦ 現在の天守北西角から戦国期の天守台石垣が見つかりました。積み方の特徴や見つかった遺物から信長期に築かれたと考えられます。
※立ち入り禁止です。



⑨ 裏門に築かれていた巨石石垣です。城の玄関口である一ノ門だけでなく、裏門にも巨石石垣を用いていたことが明らかになりました。



⑩ 裏門に築かれた後斎藤期の石垣です。④の石垣と同様に、信長期以降も引き続き利用されていたと考えられます。



④ 二ノ門手前に築かれた石垣のひとつですが、積み方から後斎藤期の石垣と考えられます。信長期以降も引き続き利用されたようです。



⑤ 二ノ門の入口に築かれた石垣です。角の部分は非常に大きな石材を用いて積み上げられています。



① 一ノ門に築かれた石垣です。岩盤の周囲に、石垣と巨石石垣を組み合わせてコーナー部分を造り出しています。構造や平面形が山県市にある16世紀前半に土岐氏によって築かれた大桑城の「岩門」と類似することから、後斎藤期に築かれたと考えられます。



② 二ノ門直下に築かれた石垣です。信長期以降の特徴を持ちます。石垣は角にあたる部分であることが分かりました。



③ ②の石垣の西側に築かれた石垣です。信長期以降の特徴を持ちます。江戸時代の絵図には約3mの高さであったことが記されています。
※現在は埋め戻されています。

二ノ門推定復元図

二ノ門の発掘調査で見つかった石垣から二ノ門の手前にはテラス状の平坦地が造られていたと考えられます。

